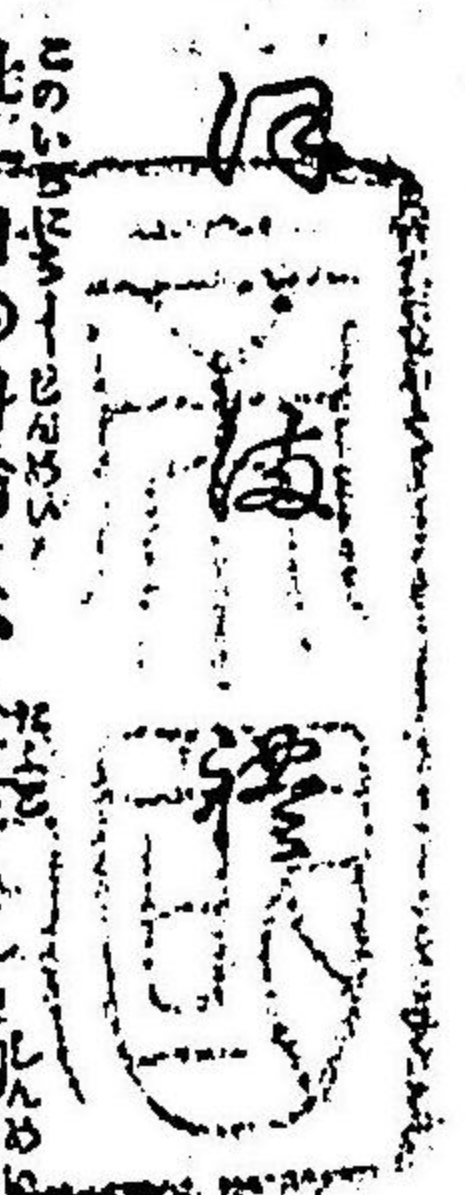


海峽禮

青洲同新書院版

是 自 衆 諸
 備 意 志 行
 教 意 行 行



曹洞青年同耕會
特別員龍海院住職

堀口周道



此一日の身命は、命なき身命あり、貴ぶべき形骸なり

右の御前、吾曹洞宗、永平寺の御開山、承陽大師様が、御在世の當時の勿論、後々の我等までに、遠く釋迦牟尼世より、歴代の祖師様方の手を経て、恰度一杯の水を、一滴も、洩さず餘さず、外の茶碗は瀉すやうに茶手も水手も傳りし佛法を、その體そのまゝ、全然とお知らせ、イヤに傳へ下されやうとて、返すくも、懇懇に、母が嬰兒に哺むやうに、説き示し、遺したかせられたる、正法眼藏と申す、大冊の御教訓の中なる、行持の巻の一節でございます、その委細の事は、漸次に申しわけますが、今爰に、サツト其の概畧を話し致しますれば、彼の儒教にも、身體髮膚を父母に稟く、敢て毀傷せざるは、孝の始めなり、又名を揚げ、父母を顯すは、孝の終りなり、と説いて、凡て吾この身體は、自分の物と思ふと、兎角粗畧に持崩すやうなるとにも立至るが、左様ではない、これに父母よりの預り物ぢやと、大切に、成るべく、傷一つせぬやうに取扱かふて、末には己が名を成し遂げて、ア、彼は、誰某の子であるやうな、と云ふやうにせにやならぬと教へます、唯現世ばかり説きませぬ儒教でも、筒樞で御座りますが我佛教では過去すぎし世、現在この世、未來のちの世と、三世を説きまして、此れ互の身體が、斯世に生れ出るの難いとは、我國の富士山より、幾層倍ともなく、ソレハ、峻く高い、須彌山といふ山の頂上より、糸を下して、彼の見渡しの付る

は 空 れ

ぬ大海の底にある、針の目途を通すよりも、未だこの人世界を生を受けるは、得難いものであると、釋尊は示しなされて御座ります、此くまで受け難く、得難き、人の身なれば、決して仇や愚にはあらぬといふとで御座います』爲すと無ふして空しく死せば、後に悔あるとを致さんと、佛も誠められて御座ります、サテ誰しも云ふまでもなく、縦へ斯の佛の誠めが無いまでも、一人として、迂闊く處では無い、少くも油断してゐらるゝ方は無く、朝から晩まで、始終夫々其の躬相應に、心肝を推いて居らるゝぢや、先づ小供衆なれば、美しい衣服を着て遊びたいとか、但しは甘味ものが食たいとか、又中年になりますれば、男女ともに、時に流行の風姿がしたいとか、挿したいとか、メたいとか、履きたいとか、冠りたいとか、又何時々の運動會に、是非一等のメダルが取りたいとか、何處其處の短艇競漕會には、何卒して優勝旗を獲なければならぬとか、今度の試験には、必らず及第したいとか、合格したいとか、又身上を持たものゝとにすれば、有るものは有るやう、無いものは無いやう、彼れはア一して此は斯うしてと、心を配り、身を養って居る、又年老になれば、年老になつたで、老の娛樂といふ、孫の保傳をかりではなぬ、ソレ相應に、人の知らない、各自に苦勞があるもので、其の苦勞心配は、老若男女に由りて、種々に差別のありまして、心遣ひの程は、勿々書き盡せるものでは御座りません、ナレドモ老も若も男も女も、總体に通じて、名譽の嫌ひの者と無いやうで御座います、ソレ御覽なさい、他人が已れに對して、彼の人は容貌が美とか、學問が出来るとか、但し世才家だとか、通人だとか、何だとか、彼だとか、賞讃られるのを聞いて、誰も顔に蕙菜のやうな青筋を張て、

怒る者は無いで御座いますやう、全体ソノ怒らないで、喜ぶのが、世の人情といふもので御座います、此の諷らるゝといふと、帝に人間をかりで無く、彼の犬や猫に至るまでも、悪くないものを見せまして、己が畜れる主人杯が、甘い語を掛けたり、頭や脊中を撫でなぞ致しますると、耳を垂れ、尾を揮て、何か菓子の一つか、前餅の一枚にも有附ふとて、媚を呈して追従するではありませんか、筒様な獸類でさへも、諷美らるゝとが、可厭ないといひますれば、況て萬物の體長かる、吾人に互ひひ、賞讃られて、心持を悪くする者はありませぬ、ソリヤ無處ではない、如何がなしても、之を獲たい、慾いものぢや、如何すれば獲られやうか、是非手に入て見たいものぢや、と心を痛め、氣を焦れた者は、先づ廣い世界に、一人として無いとは、前にも申す通りである』併し人間に、此の名譽心が無ければ、何事も發達もしなければ、進歩もしないのであります、大きく云へば、人々に、此の夕譽が無い時には、一國の體面を維持とも出来なければ國家の進歩するとも出来ません、出来なればかりでなく、却つて國家の害にそなれ、毫しも利といふものはありませぬ』近頃は、彼の北清事件で御座ります、最も彼には、種々入り込だ事情もありませんが、畢竟といへば、世那人に、名譽心といふものが乏しいからとで御座ります、何せなれば、若も万一支那人等が、斯の名譽心に富で居たなれば、二十七八年に、彼の様な大耻を曝してありながら、モノ十年とも経ぬ其の中に、設令如何なる事情があれとて、何どか方法の付けやうも有たらうに、彼の様な大騒動を惹起して、ソレも自分の國ばかりで無く、自分が自分で始末が付かぬのみか、剩へ、多くの列國までも、迷惑を掛け人を傷ひ、

財産を築し、十々の結局は、他人様方の御厄介になつて、結末を就けねばならぬもの、何と是でも多量に富で居ると申されまじやうか、チト受取にくいやうで御座ります、氣を付けねばなりません、全体支那の人等が、何卒か今少し、名譽心に富で居さへすれば、何も暗闇の耻を、明々地へ出して、他人様まで厄介になるには及ばぬです、積つても御覽なさい、ヨク世間あるとてすが、備は有るか、無いとか、足りるか、充らないとか言つて、夫婦の間合に、物言が始まり、夫が段々と慕り盡して、果は近所隣の厄介になる杯といふとい、随分珍しくない、外聞囁と同一で、尤も支那は、何に致せ、彼の通りの大國で御座りますから、大男総身に知恵が廻りかね、と云ふやうな工合で、聞く所に山れば、如何も隅から隅まで、我國なごしへ違つて、政治向なども、行き届いて居らざるのみか、一体何に角に付けて、頓着といはふか、不始鯉といふもの、實に話に成たものでは無らうで御座います、ソウ云ふ調情で御座いますから、随つて、筒様な事を仕出來したなれば、他人様の迷惑になりはすまいか、厄介を掛けはすまいか杯、と云ふ觀念の薄くして、只慾ばかり深く、已れの身體を傷ひ、延て國家の健康を毀ると云ふ、彼の阿片などに、切々と汗水を垂して、稼ぎ貯たる、貴重財産を空費して、他の國を肥すと云ふ、筒様な料簡方で御座いますから、是等の人々に對つて、夕譽心の何のと云つて賣るもの、少し無理の注々のは知れはせんもの、兎に角、支那は我邦とは、唇齒輔車の間柄で御座いますから、此くは不要なセツカイを申すので御座います」サテ是は太屠支那世話に踏込されたが、全体この名譽と云ふものは、幾許自分から獲やうとて、得らるるものではない、御座

りません、假令獲たとて、自分うら求めたものでは、名譽とは申されません、當時世間で流行の、何々慈善會などし申して、彼處此處で開かれまゐる、アノ慈善と云ふとは、一体人目を惹くやうなものを致して爲るのは、慈善の本旨と云ふものでは御座いますまい、何故なれば、慈善と申すとは、なごけと申して、何と人目を街つて、致す可きものではない、已れを爪つて、他人の痛さを知ると云ふ、言を換て云へば、怒といふとて、貧困ものを見ては、悠に思へ、災厄に遭ふた人のとを聞ては、氣の毒に思ふて、先づ自分の慈善災息を祝して、多少に拘はらず、金穀物品を施すといふのが、慈善であらうかと存じます、然るに世間の多くは、自分の名を賣り、譽を要めんが爲に、是を爲すものが多いやうに見受をするが、夫では折角の慈善も、慈善に成らずして、恰も東京へ行くよ、西京の方へ歩を進めるやうな、方角違ひになり致しますまいか、併し是も一樣にサウばかりと云ふでは御座いませぬが、何に致せ考へるので御座います、本とく名譽といふものは、隠れたるより顯るゝは無しとか申して、決して自己より要求ひべきもので無いとは、繰返し申す通りで、唯已れば、已れの履むべき道を踐み、已れの務むべき業を務めて、他人に難儀迷惑を懸くるとなく、日常行ふて餘りあらば、窮困者や、難澁する者等に、假令僅少なりとも、金穀物品に拘はらず己れが力を分て遣る、筒様に致しますれば、世間には目がありすから、如何な自己が隠さうとしたとて、自然に世の人の眼目に留つて、嗚呼アノ人は、正直者だ、勉強者だ、慈善家よ、陰徳家よ、何よ、彼よと、賞讃して、夫からそれと評判して、要らない、五月繩を思つても、知らずく、名譽が其の身に蒐つて來る

もので御座ります、夫は上手な醫者様の門には、招なくとも、患者の集り、格恰の店には、自然と客足の絶間が無いと伺い、ソレと云ふも、世の中の評判といふものは、包み蔽しのあらぬもので、随つて其の様には繁昌になつて、且へた金の儲かりて、名譽を獲るといふので御座います、此の通り、名譽といふものは、自己の行為に向つて、世間より拂つてくれる、形のなき儲けとも申すべしもので御座います、之を自分獨りで、彼の石田三成のやうに得やうとしますと、自分でも得るとか出来ないので、遂には彼の様に、御主人の身の上は勿論、他家でも傾くといふ、始末に立至りますから、是に付て、能く／＼氣配配らねばなりません、又彼の尊氏などは、皆様も御承知の通り、當時の天子様を究め奉り、多くの人命を損ひ、血の海を湛へ、榮る勢に崇りなしといふ調子で、時の天下を握つて、足利將軍といふ、大名譽を得て、實に列伍ある勢で御座いました、果して其の大名譽を、將來までも持続けたかといふに、數百年を経た後に、高山彦九郎と云ふ、正義な人物に出會つては、三百の笥の恥と共に、其の大名譽も、散々に消滅しては居たのでありませんか、之に引き換へ、彼の楠 正成公などは、如何で御座いますやう、僅かの手勢を以て、孤城に立籠り、如何に、後醍醐天皇様の、御依頼があつたよせよ、彼の足利勢の大軍を引き受て、縦へ何回打ち敗けやうとも、夫が爲に、氣を屈し、心を阻なごといふとなく、其の死に至るまでも、惟一筋に、人の臣たるものは、時に運不運があろうとも、不義の榮耀英華に眼を味まさせず、骨を野原に曝そうとも、道に缺けたる衣食は貧らず、人は何とも云はく云へ、再び臣たる道を踐み外すべしと、昇る足利の旭日に較べては、光

りも湖さ夕陽の、最期をこそは送げられました、其の凝り塊まりし忠義の一念は、其の後に至り、漸次と、湊川に解けて流れて、今日この頃、勿體なくも、身城二重橋の外に、其の勇しき銅像を安置せられて、幾百萬の人々に、瞻仰せらるゝのみならず、香ばしき其の名譽を、將來までも傳へるとは、何と雲泥の差か、有れば有るものでは御座います、其のワシントンといふ人は、自分の同胞兄弟が、英國の酷い政治に苦しんで居るのが氣の毒さに、自分の身命を犠牲として、到底米國の獨立を成し遂げられ、其のたも、是れ畢竟ワシントン氏か、人道の正義を履まれたに由りて、今に至るまで、其の名が輝やいて居るの御座います、併し是れは戦争を必かり限るではありません、ツ井先頃逝去されました、伊藤圭介博士や藤澤論吉先生方に就て御覽なさい、伊藤博士の如きは、彼の通り死後に 天皇陛下より、優渥勅諭を賜はり、且つ孰れも祭資料までも、お遣しになりましたではありませんか、何と此の上、身に餘る榮譽が御座いますやうか、世の諺にも、虎は死して皮を留め、人は死して名を留むとやら、折角に互に、此の世に生れ出し甲斐には、此くありたきもので御座います、教育勅諭にも、『爾臣民、父母に孝に、兄弟に友に、夫婦相和し、朋友相信じ、中略、是の如きと、獨り朕が忠良の臣民たるのみならず、又以て、爾祖先の遺風を顯彰するに足らん』と宣へしも、矢張この聲召で、人の子たる者申すまでも無く、父母に對しては孝養を盡さねをならぬやう、兄弟は互に中克せよ、夫婦たるものは、異身同體ともいふべきものであれば、是亦相互に和睦して、假にも家の内に、波風あつたを起すまいや、朋友同士は、相身互に、信を以て交際し、又己が身は『世の中は有るにまか

せて事足ぬ無くて事足る身を安けれ』と云ふ古歌の如く、成たけ儉約をして、贅澤を爲るなよ、ソシテ、吾父母兄弟を愛するが如く、博く世間の衆をも愛恤せねばならぬや、且つ已れば、幼少の時より、油断せずと學問を修め、家業を習つて、世の爲め國の爲めになるとせよ、斯く申すと、太尉大仕掛オッコに聞かするが、決して爾では御座いません、ソレ御婦人が針を一本持て破綻を縫ふのも、たゞ百 性方が鋤鋤を以て田畑を耕すのと、町人衆の箒掃弾くのも、官吏方が事務を取扱かふのも、總理大臣を初め、各省の大臣方が、政治を執捌きなさるゝのも、一切合切、ドレモ是も、皆世の爲め國の爲め無いの、無いので御座います、此く申せばとて、早合點にと、ソシテソナラバ車力だバ馬士だけれども、矢張世の爲め國の爲めに、斯ういふと爲爲てゐるのだから、何の總理大臣も蜂の頭も有たものかと、丸呑を食されては困りませ、成程ソレラの稼業を爲るのと、決して國の爲めで無いと申しませんが、直様一國の政治を執る大臣より、少と權衡が取り悪ふ御座います、何故なれば、大臣とも云いゝ方々は、先づ、身上向などには、左程肩托の御座いませんが、斯く爲たなれば、下々の人の爲になるだらうか、或い不爲になりはすまいか、誰某の内閣には、此様不都合の事が有た杯と、後々に至りて、悪い評判を受けはすまいか、イヤ夫は承だしものと、上天皇陛下の御依願に背きはせまいかと、夫は、已が名譽を省みると共に、四方八方へ氣を兼ね心を配るとは、逆も車力や馬士さんが、活計向や、遺線算段に氣を揉み、夫と云ふも如何してなりとも、他人の物には、心を寄せまい、筋道の違ふものは、縦へ死の毛一本たりとも、決して手又は觸れませぬや、

何卒り彼の柿色の仕着物を附けたくないと思へばこつ、汗水をも垂して稼ぎ、心を苦しめらるゝので御座います、是と云ふも、底を翻て見ますれば、假令湯なり粥なり嘔るども、人の人たる道を履み外したくない、耻を晒したくない、其の裏には、即ち名譽毀つたたくないとの料簡が籠つて居るからで御座います、尙ほ語を換れば、耻を知ると云ふことになりませぬ、故に、佛も、愧あるの人は善法あり、若し愧なきものは、諸の禽獸と、相異なる無し、と訓誡を垂れさせられて御座ります、斯の耻を知り、名譽を貴べばこそ、れ互に、辛い心棒もし、苦しい勤勞もするが、若し我人に、斯の心が無い時は、如何なる、無法亂雜の事を仕出來して、れ上の御厄介にならぬとも限らない、然るに、今樂々々煙のトで、佛の御法を見聞するとの出來るといふは、畢竟コノ心があるからで御座います、斯の心掛があつて、何一つ、お上の手敷を煩はさず、己が家業大切と稼ぐ、是れ乃ち各自か、天皇陛下下の御心に添奉つるので、取も直さず、世の爲め國の爲めと云ふもので御座いますれば、精々此の心掛を持傳へて、取り失はぬやうに致したいものです、例へば、銘々の身體に、チヨイト何處か、針の尖で衝たやうな、傷處がありまして、何となく、心地の爽快とせぬと同じやうに、廣く日本の裡に、假令、一人半分でも、心掛の善く無い者がありとすれば、れ上の御厄介は勿論のと、恐れ多くも、天皇陛下下の御心を惱し奉る義なれば、夢忘れてはなりませぬ

サア是迄述べてまいりました所で、累名譽の如何なるものかと云ふとは、れ了解になつたであらうかと存ト申す、所で、之を擇ぶとが、又肝要で御座います、六ヶ敷とはサア措て、斯の名譽と云ふものに、横廣いもの

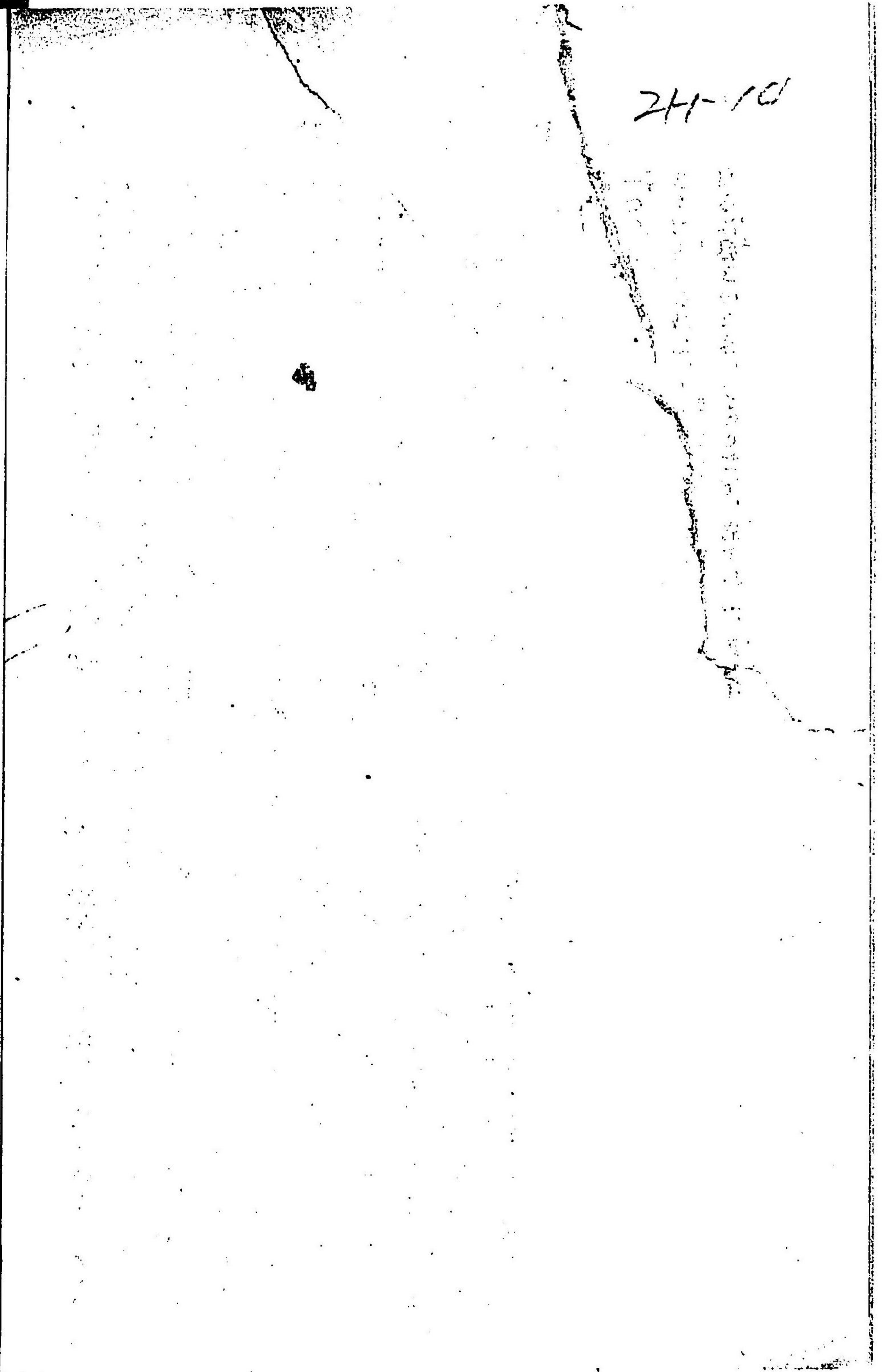
「堅長なものとの、二つがあるといふことを、承知して居て貰はねばなりません、と申して、急度簡儀に、二箇の、分離になつて居て、決して、互に交るとが出来ぬかと言ふは、時としては、相互に連絡ありて行くとも御座いますから、強ちよ、離れたものとはかり思つては違ひます、先づ手短かに申しますれば、横廣の名譽といふは、電光のやうに、忽ちと、一時世間に廣がるけれども、直に立消となるもの、例へば、誰しも劍呑に思ふ、日本國の周囲を、僅か小い短艇で、漕て廻つたとか、又誰某は、一冬富士山の頂、上に冬籠りしたとか云ふとは、成程、一時世間の評判は得まをが、決して永くは續かぬ、明智光秀の三日天下のやうなもので御座います、之に引き換へ、堅に長く續く名譽といふは、初めから、爾極つたものがあると言ふではあゝ、例へば、ランプや燈明に、火を點すやうな接排で、一度點けさへすれば、夫でズット名譽の燈火が、何時までも續いて行くので御座います、尤も是は本人が、最初より、斯う云ふ名譽を得やう杯といふ意志より割出した際では無い、其の人の行ひや、爲したる業が、世の模範となり、國の爲めになるといふ事は、本人はサナ措き、側で黙つて、見逃しは致しません、聞は、奥深い谷間に入りまして、自然に其の香は嗅ぎ出されて、世に珍重さるゝやうなもので、蔽し立にはなりません、今より百年程以前、すなわち徳川幕府の頃に、讃岐の國は寒川郡志度の浦に、平賀源内と云ふ人が御座いました、此の人は、諸科の學問に達して居て、何角と公益を廣めた方ですが、其の内でも、一番名高いのは、砂糖製造の事業で御座います、夫といふは、此の平賀源内か、其の頃、我國にて用ふる砂糖は、大抵外國より輸入するものであつて、

年々莫大な金銀を支拂はねばならぬ、夫が爲め、當時幕府に於ても、非常に心を痛められ、切て輸入を防止切れないまでも、如何がなして、我國に於て、景を製造せしめたいものぢやと、種々に獎勵法等を設けて、獎勵して見ましたが、何も、孰れも善い結果を得られぬ、ソコで源内も、亦これを憂ひて、遂に大坂の商人、中嶋喜四郎といふ者に勸めて、土地を擇ひ、甘蔗を栽培しめ、之を以て、砂糖製造に取懸りました所が、頗る好い結果を得ました、夫より此の事を傳へ聞て、諸方に酒内の法を用ひて、製糖事業を興しした故、幾年も経過の中に、舶來の品を用ひずして、我國の需用は、充りるやうになつた、と申すので御座います、尤も當今は、其の時分と違つて、全國の人口も殖て居りますから、爾も行させせん、随分一年の中に、輸入高も出みますが、若しも當時源内の苦心が無かつたならば、今日では、全然舶來を待たなければならず、随つて、多くの金銀を輸出して、我國の衰弱となるので御座いました、仕合せにも、今日の場合に止まつて居るといふ、偏に源内殿の賜物と云はねばなりません、シテ初め源内が、是に意を注いだといふものは、何も、后来の名譽が慾いの、なんのやいふ細筋があつた、次第ではあります、年々歳々、國の財寶を、多く外國に持ち出すのみならず、其の製造か開けないが爲に、全國の人々が、不自由を爲るのを、見るに見兼ねて、己が身命をも顧みず、日夜心を摧き、東奔西走せられたので御座います、けれども、其の結果が好つたのに基くとは云へ、時の政府より、重き御恩賞に預り、且へ世間には名譽が擴り、今に至つて、其の名は衰へず、製糖の功と共に傳はつて居りまして、誰知らぬものはありませぬ、是れすなはち、堅に永く傳

はる名譽といふものでありませぬ、左すれば、我人相互は、先づ何方を擇んだものであらうかと云ふに、兩方ともを得らるれば、夫程結構などは無い、又誰しも慾には相違ないが、下世話にも云ふ通り心二つに身は一つ、と云ふになりますと、兎角、何處かに無理が出来てやゐります、誰も世間には、仕事の好きなどいふ者は御座いませぬ、けれども、怠惰で遊んで居て、氣血我儘に、今日を過さうとて、サウ兩天秤には行かれません、夫を爲れば、世間に不義理といふやうな無理は、眼の前です、依つて、厭な仕事も、嫌ひな業も、努めて爲ねばなりません、然るに、厭ぢや、嫌ひぢやと云ふをかりで無く、イヤ、巳の末だ幾歳々々ぢやから、何歳になつたら遣らうの、イヤ、巳は最早歳が老たゐら出来まいの、と其の口送りをして、日一日と無法に過し、或は身分にも無い望みを起したり、又は見指の付かぬ事業に手を出したりして、揚ぐの果は、親から譲りの身代を、棒に振って仕舞て、思はぬ貧困、裏店の生活をせねばならぬやうに立至ります、是と云ふも、一夜富豪の、名譽の夢を、貧つた結果と申すもので御座います、一日の生命を、等閑に爲たからであります、左れを、皆様には、決して其様一夜富豪の、似而非學者の、女傑の、或は、俄か作りの令婦人、令嬢にならたいのと、及ばぬ鯉の滝登りを、夢見て居らるゝ方が有りますまいが、若しも萬一、爾云ふ了見が起つたならば、克く心沈め、氣を落付てサテ、吾身は如何なるものであるか、夫は斯の身と相應すべき希望でありや、と省みると共に、實に斯の身の受け難く、得難き事を思ひ廻らして、父母に對して、孝養を欠かはずまいか、親類縁者の中すに及ばず、世間を對して、義理人情を外へはすまいか、と時々刻々に我が身を

反り見て、日々巳が務むべきを勤め、假設、僅かたりとも、決して他人に難儀迷惑を掛けざるのみか、ア、此の吾身は、出る息、入る息、此の息が、一つ狂ひを、厭とも、多數の人等に、暇乞をせねばならぬのである、棺を掩て事定ると、古人の云れし如く、冥府に居るまで、匿名で遊ばやうなところありては、折角、受け難き人身獲得たる甲斐の無いと申すものではありませぬまいか、一体、さういふ事になると云ふの斯の身を、金佛かなどのやうに、手丈夫に思つて巳がくを通して、今日は何、明日は何と、一日くを、迂濶くど、暮して仕舞から御座います、サア、うら成つては最早取返しは付せぬ、高祖大帥も、如何なる善巧方便ありてか、過にし一日を、再び返し得たると、れ示しなされし如く、如何なる手段を盡せばとて、最早過し月日の、はならぬ故に、其の口くは遇ふとに、此の身太切と、敬はり尊とみて、苟且にも、意を邪まに入れ、人の人たる道を履み外すとなく、克く巳が分を知り、生ては、陛下の忠良の臣民となり、死して、世上に名を留むるまでに至らずとも、縦へ、巳が郷里となりとも、名を還し、譽を止むるの安心決定が、何より平常太切で御座ります。

24-10



019842-000-2

特22-540

ほまれ

堀口 周道/述

刊年不明

ABG-0673

